

専念寺通信

四月号 (NO. 140)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

今年の春は、天候不順でした。気温差の大きい季節、皆さま、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいましたか？

☆春の彼岸会・ご報告

今年のお彼岸は、あいにく天候に恵まれませんでした。晴れの日、1日と半分くらい、あとの日は、彼岸の入りの冷たい雨をふくめ、曇りや寒い日が多く、お墓参りなされる檀家さまも、傘を差して、また、冷たい北風にふかれておいででした。1週間の彼岸のあとに、土曜、日曜が続きましたので、のべ9日間、住職と大黒とで、大玄関で檀家さまをお迎えいたしました。記帳してくださった方が248軒、ご家族連れの方が多くいらっしゃいましたので、延べ、500人か600人の方が、この小さな寺においでくださったことになり、記帳する手が赤く冷たくごえている方もいらっしゃいました。

玄関に来る前に、お墓をきれいに掃除され、それから私たちのところに来てくださるからです。彼岸のお中日、墓地を歩いて、写真を撮らせていただきました。左の数枚は、それぞれが、眠っていらっしゃる大切な方によく似合う花を、と違ってえらんでいらしたのだということが分かります。奥さまのための可憐な花、瀟洒な美しい花、年齢やその人生を考えて選ばれた、威厳のある花、などです。右の数枚の写真、こちらは、墓前に供えてある品に胸をうたれました。お菓子や飲み物、おはぎ、あるお墓などは、お供えしきれないほどの、さまざまなのが並べてあります。きっと、亡くなった方の好物を持っていらしたのだらうと分かります。ほかに、とても清楚で品のよい花

束、きりりとして無駄のない風格のある花、ささやかだけれど、墓前に立っていると自然に涙がこぼれてくるような気配のある、思いの伝わる花、撮影は遠慮させていただきましたが、どれも、美しい供花ばかりでした。お彼岸の専念寺の墓地は、生きている方と、向こう側にいる方が交流している時間が本当に生まれているのだ、実感したことでした。お墓のお名前が分からぬように写させていただきましたが、皆さまの優しさや深い信仰心をお伝えしたく、この掲載どうぞおゆるしてください。

一番下の写真は、新しくできた動物のための供養塔です。彫刻してある文字は梵字で「智慧」をあらわす一文字です。すでに何軒かの檀家さまからの問い合わせがあり、何匹かの、家族同様の動物たちが眠っています。春になると、すぐ横の大きな樺が緑の葉をひろげ、夏には心地よい日陰を作ってくれるでしょう。動物の名前入りのプレートを壁面に設置することができます。

☆小さなお知らせ：震災の被災地への支援活動は、ささやかながらずつと続けております。札幌出身の若者が、陸前高田に震災直後に行き、プラスチックの瓦礫をけずってキーホルダーの形にし、口こみで全国に紹介しました。1年後の今も続けています。いまは、養護施設を拠点にしてこつこつ作っています。この人から、この「瓦礫キーホルダー」を30個くらい送っていただきました。1年後のいまは、組織もしっかりとしており、インターネットで見る限り、決算もきちんとしていて、毎日の活動の様子を写真入りで紹介しています。テレビなどで見るより、まだまだ、瓦礫の撤去が進んでいない場所がとてとたくさんあると、その映像で知ることができます。お参りの際に、瓦礫キーホルダー、お持ち下さい。寒暖の激しい折柄、皆さま、お大切にお過ごしくださいますよう。

平成24年4月1日

大黒

